



すずかけ

令和6年4月8日

第1号

校長 鎌田 史顯

桜の開花と共に新年度スタート

4月5日（金）に新任式・始業式を行い、令和6年度がスタートしました。新年度のスタートと8日（月）の新入生の入学を祝うように、校庭と逆川河川敷の桜のつぼみが一気に膨らみ、春爛漫の時期を迎えました。

春は別れと出会いの季節、3月の人事異動で6名の先生方が転退職され、新年度は新たに8名が加わりました。新任の8名は、歴史と伝統ある大郷小学校での勤務に緊張しながらも、活き活きと学ぶ大郷っ子との出会いを楽しみに、4月1日より勤務しています。



年月は重ねましたが隅々まで掃除が行き届き、きれいで大切に用いられてきた立派な校舎。子供たちの成長をずっと見守ってきた広いグラウンドと木々。歴史を刻んだ史跡と緑豊かな中庭。桜の回廊が楽しい逆川の河川敷。青空に映える雪をたたえた月山。間もなく水が張られ、緑がまぶしい田園風景など、本当に素晴らしい学習環境です。この恵まれた環境で仕事ができることに喜びを感じながら、全教職員が一丸となって、子供たちの学びをしっかりと支えて参ります。

□今年度の教職員「どうぞよろしくお願いいたします。」

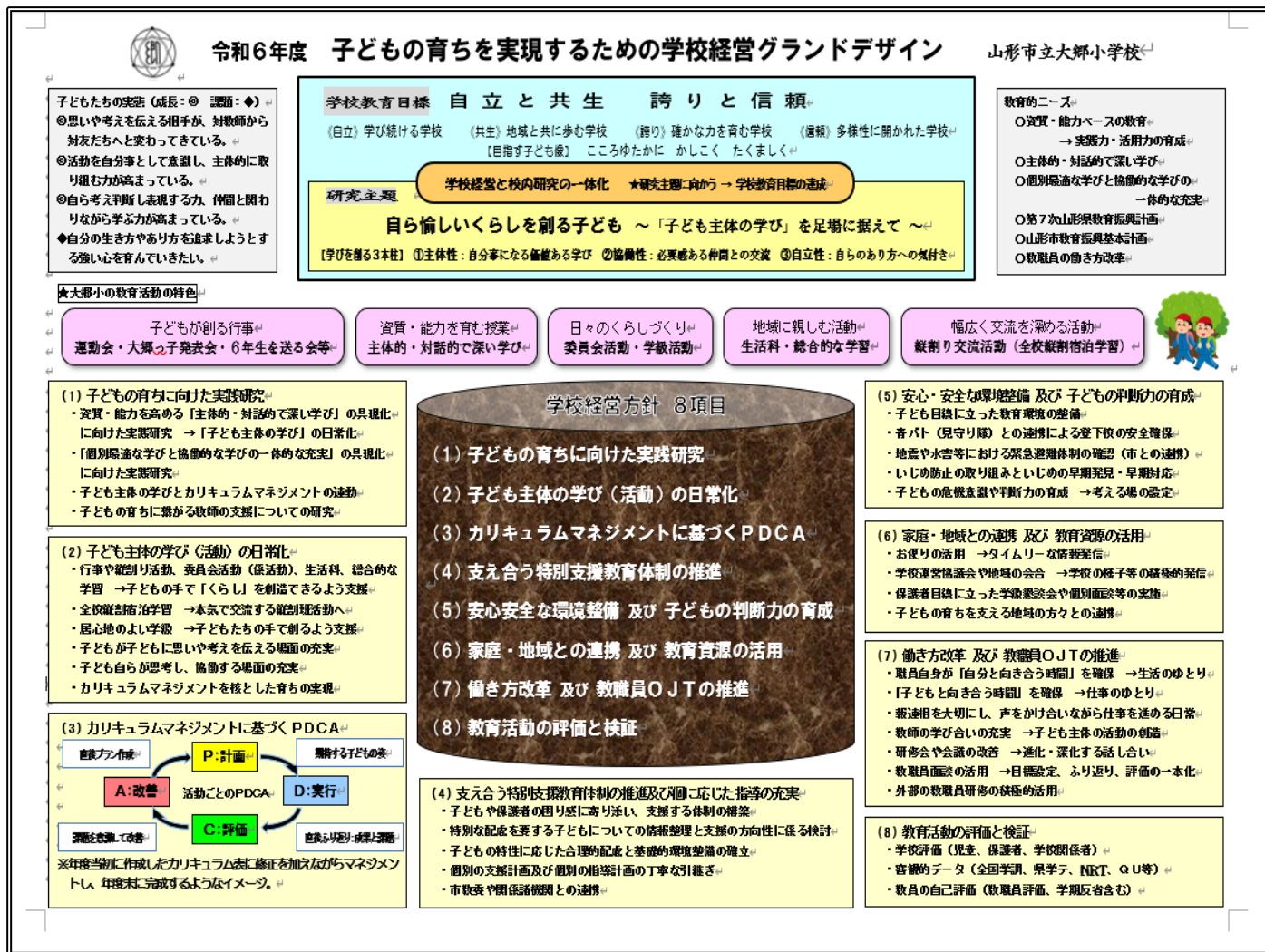
※下線は今年度転入教職員

校 長	<u>鎌田 史顯</u>	初任者支援	色部 敦美
教 頭	設樂 宏幸	特別支援指導	<u>齋藤也寸志</u>
教務主任	<u>後藤 明男</u>	養護助教諭	<u>五十嵐幸生</u>
1 学年担任	東海林陽子	主 事	石森 翠
2 学年担任	渡邊 爽人	初任者後補充	原田由美子
3 学年担任	<u>阿部 咲来</u>	特別支援指導員	工藤 吉子
4 学年担任	佐藤 優衣	技能主査	楠川 智之
5 学年担任	森谷 実	技能技師	<u>高橋 正賜</u>
6 学年担任	高橋恵利子	図書・給食	本間 紀子
すずかけ1組	金田 真優	業務支援	<u>長瀬恵美子</u>
すずかけ2組	<u>齋藤あさひ</u>	ALT	アフィース・アデリビビ

【学校たより「すずかけ」について】

今年度の学校たよりのタイトルを「すずかけ」としました。校庭の大きなプラタナスの木は、大郷小のシンボルツリーであり、長年にわたって学校と子供たちの成長を見守ってくれています。春に小さな黄緑色の実がなり、夏には大きく成長し、秋には茶色に色づき、冬には褐色となった実が、寒風に揺れながらも枝にしっかりとついでおり、その姿が「鈴」に喩えられています。子供たちの一年間の成長を実の成長に重ね、努力が結実した姿に、賞賛の鈴が高らかに鳴るようにとの思いや願いを込めました。これからどうぞよろしくお願いいたします。

子供の育ちを実現する学校経営について



子供たちの未来は、「予測できない社会」「変化の激しい時代」「加速度的な情報化やグローバル化」と表現されています。社会の在り方や構造自体も劇的に変わる『Society5.0時代』に、すでに入りかけているとの見方もあります。

企業では就職活動において、履歴書の提出はなくなり、エントリーシートをオンラインで入力し、説明会や面接もオンラインで実施するのが当たり前になっています。驚くことに、去年は90%以上の企業がweb面接を実施しているのです。さらに、「今後10年～20年程度で、半数近くの職業が自動化・AI化される」とか、「子どもたちの65%が今は存在していない職業に就く」といった未来予測もあります。

AIやコンピュータ制御のロボットが、正確で繰り返しの仕事を得意としているので、減ってしまう仕事がある一方で、社会の課題を解決するための新しい仕組みを考え、その実現を図るといった新たな仕事が増えるのは間違いないと言われています。そのような「仕事を生み出す」ためには、『目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと』などが必要とされており、それは現在の「学習指導要領で育成を目指す資質・能力」なのです。

本校では、「子供主体の学び」を授業づくりの土台とし、「子供が自分事として必要と感じ、学ぶ意義を理解しながら全力で取り組む学習」「自分の考えをもって他との交流によってより良いものを求める他との関わり」「学んだことをどのように活かしていくのか、自分なりの納得解を選択する深まりのある学習」を「学びを創る3本柱」とし、『自分の力で、自分の道を切り拓くたくましさ』『確かな学力』の育成を目指し、全職員で研究と実践に取り組んでまいります。